

平成30年度 輪島市総合教育会議

開催日時 平成31年1月30日(水) 午前10時
開催場所 輪島市役所4階第1会議室
出席者 市長 梶 文 秋
教育長 宮 坂 雅 之
教育委員 石 本 昇 蔵
教育委員 左 古 隆
教育委員 古 原 由 里 子
教育委員 小 川 正

事務局説明員

教育部長兼庶務課長 定 見 充 雄
学校教育課長 富 水 聡
庶務課参事兼課長補佐 茶 花 隆 一

協議事項

- ・輪島市立小中学校における ICT 環境の整備について

報告事項

- ・輪島市立小学校の適正規模及び適正配置について

会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>おはようございます。 定刻となりましたので、ただいまより平成30年度輪島市総合教育会議を開会いたします。 開会に当たりまして、市長よりご挨拶をいただきたいと存じます。</p>
市長	<p>皆さん、おはようございます。 きょうは、少しなかなか太陽の光を受けながらの、これで3回目の総合教育会議ということになりましたけれども、教育委員の皆様方には大変ご多用の中、早朝からお集まりいただき、まことにありがとうございます。 輪島市のこれまでの歩みとしては、全国的に、とりわけ地域創生ということが言われておりまして、地域がまずみずからどのような自治体づくりを、人づくりを、そういうことをしていくのかということが、それぞれ今問われているそんな時代だと思っています。 人口の減少率がなかなかとどまりません。奥能登の2市2町は、県内19の自治体の中でも特に課題となるのは人口の減少率、それから少子化、高齢化、こういう悩みをそれぞれ持っています。 もう一つは、財政的な課題ですけれども、どうしても地元には大きな企業がなくて、法人税あるいはいろいろ会社に勤める人たちが納めてくれる所得税、こういった税源が非常に少ないという</p>

ことでそれぞれ共通の悩みを持っています。

輪島市の場合はいかがでしょうかと申しますと、1年間の予算の支出総額というのは230億円程度がこれまで年間の予算として使われております。市民の皆さんからいただく税金はどれだけかという、25億程度ということになります。全体の予算に占める税収割合というのがそういう意味では10%をわずかに超えるという程度であります。それでもそこに住む人たちにとってどういう生きがいや喜びが感じられる、そういう仕事をしていくかというのは行政の仕事になります。

そして、そういう地域であればこそ、子供たちが働く場所が少なく、地元にとどまらず、人口規模が減少していき、地域の活力がいや応なしにそがれていくという中で、学校の立場から言えば、自分たちのふるさとに誇りを持って必ずふるさとに帰ってくるということを仮に教えたとしても、家族を養っていくという場所が少なければやっぱり地元に残ることが困難であるという、そういう循環が取り巻いています。

そのことから、学校の統廃合という問題は、これはいつもその問題を注視しながら、そこをどう切り抜けていくのかということを考えていかなければなりません。

行政は行政の立場からして、今度はいかに地域にそういったことを備えていくかということで、まずはスポーツによるまちづくり、人づくりということをこれまで訴えながら、スポーツ施設を整備したり、あるいはそれ以外の公共施設の整備をしたり、こういうことを通じてそれぞれ頑張っているわけでありましてけれども、そこでざっくりとすみ分けするとすれば、市長部局は予算や、あるいはまちづくりやいろんなことを通じて、どちらかといえばハードな部分などを中心に仕事をしているということです。

でも、教育委員会部局のほうは、教育を通じて人づくり、そして将来にわたる地域づくりを目指して、いろいろとご検討していただいて、それがこの総合教育会議の中で両者の立場からそれぞれの意見を共有して、そして将来の地域をどうするかということを考えなければならないと、そんなことを役割として担っているんだろうと思っています。

よく最近テレビなどで、小さな自治体であっても非常に教育に熱心な自治体もあれば、それからその地域を圧倒的に少なくなっても地域の中で頑張る人たちがいて、その人たちが中心となり、行政を動かし、いろいろその地域全体を外からも人を呼び込むだけの大きな魅力づくりに取っかえて、そういう地方創生で頑張っている自治体もあります。

輪島市の場合、もう一つ申しますと、財源不足を補うのにふるさと納税といったところにもかなり力を入れています。最初の第1年目は1,000万にも満たないふるさと納税でしたけれども、少しいろいろどうふるさと納税によって輪島市に目を向けてもらえるかということをやっている中で3億8,000万というふるさと納税をしていただいた。3億8,000万のふるさと納税があれば、その30%、これは返礼品としてお返しをするということになりますから、新たな市場として1億数千万の市場ができた。そして、その残る財源の資金でいろいろなことをやっているわけでありましてけれども、ことしは非常に少なくなりました。3億8,000万が3億6,000万になり、ことしは3億に届くか届かないかという状況です。これはそれぞれの自治体がふるさと納税の返礼品などを含めて、地域の発信をどんなふうにするかによって、そこはまた変わってくるんだろうと思っていますが、当初予算の査定も終わりましたけれども、その中ではふるさと納税でいただいた寄附金を相当教育の分野あるいは文化関係に相当充て込んで文化財を守るという仕事であったり、さまざまな仕事にそれを生かしていこうと思っています。

きょうはその中でもこの会議の中で、きのう初めて事務局のほうから協議事項1件、報告事項1件ありますという説明をいただきまして、それをきょうはベースにして、今後の教育のあり方について皆さん方といろいろな意見を交わそうということでもありますけれども、こんな総合教育会議ならあんまり私は意味がないというそんな思いもどこかでしているわけでもありますけれども、もう少しこれから日常的に教育委員の皆さん方と、それから教育委員会部局挙げて、教育にどんなふうにかかわっていかうとするのかというような話を意見を交わしながら、こういう傍聴席も用意してあるわけですが、一般の方も含めてこれを傍聴して恥ずかしくないような総合教育会議になっていくことができればそれに過ぎるものはないということを思いながら。そうは言いながら、きょうは事務局のほうからいろいろ課題について提案をいただき、教育委員の皆様方としては日常的にこの種問題についていろいろご協議いただいているところではありますが、きょうは市長部局代表して皆様方と意見交換ができればと、そんなことを思っております。

言いたいことを並べると1時間以上しゃべらんなんことになるんですが、大ざっぱな言い方ですけれども、そういったことを申し上げながら、きょうの会議をより1つの協議事項だけ、報告事項だけにとどまらず、さらに深さも、それから横幅も広げて議論ができればとそんなことを思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。

この会議は、市長が議長となり、議事進行を進めていきますので、市長、この後の議事進行をよろしくお願ひいたします。

市長

この会議の議長は市長がということだそうでありますので、以下の会議について進行させていただきたいと思ひます。

近年、それぞれの自治体の中でも、いろいろと子供たちの教育にどんなふう頑張っているかということが特徴的に報道されるという、そんなケースがありますし、またかつては余りオープンにならなかった他の自治体との成績がどうであるか、特徴的な教育を通じてその自治体の子供の学力が圧倒的に上がったとか、そういうようなことも報道されるようなこんな時代になってきましたので、やっぱり私ども市長部局とすれば、先ほども申し上げましたけれども、予算を預かるという立場からさまざまな施設整備あるいは教育環境、それからさらには、本当は私も国が補助金をつけるつけないという前に市内の小中学校に冷暖房の整備をきちんとやっていきたいということの一つの自分の政治目標に掲げてきたところですが、たまたま去年が災害に等しい暑さだというふうなことがあってから、急遽文科省が動き出しまして、全国の小中学校に冷暖房の整備、冷暖房という言い方ではなくて、とりわけ冷房の施設整備ということが言われて補助金が出されるということになりました。

輪島市は今までの予算査定の中で輪島中学校が、これはもう理想的な施設環境というのが整ったということで、まず少なくとも格差をなくすために門前中学校、それから東陽中学校にはそういった整備を進めていかうと。しかし、小学校についてはその財源の調達が非常に困難であるというようなことから、少し時間的におくれることもやむを得ないという覚悟を決めて国、県と財源交渉を行ってまいりましたけれども、小学校の特別教室、図書室、それから音楽室、それからランチルームとか、そういうところにも全て整備できるだけの過疎債の調達が実現することにな

りました。これをもってあす臨時議会を開催いたしまして、その小学校の予算について来年実施する予定のものを前倒して臨時議会で予算化するという方針を固めました。

過疎債というのはどういう制度かといいますと、その自治体が若年人口が圧倒的に少ないとか、何年前と比べて人口が圧倒的に減少したというところを過疎地域に指定して、その過疎地域を脱却するために自立支援法という法律があって、それに基づいて借金をすることができる。その借金を生かして頑張りなさいということになっておりまして、その借金をするためには事業費が仮に1億かかったら1億全部借金してもいいですよ。それを借りて、返すときにその元利償還金の70%は国のほうから地方交付税ということで地方に交付されるという制度です。これは財源の偏在する都市、大都市は自主財源比率が非常に高い。それから、田舎の私どものようなところは自主財源比率が非常に少ないと。そういう自治体でも平等にそこに住む人にとっているんなことが享受できるようにという借金の制度でありまして、この過疎債を借りることができるということに確定しましたので、その手法でできるだけ早く整備するようにやっていきたいと思っています。

ですから、そういうハード面、学校における教育環境あるいは教員の先生方の働く環境整備ということについて、私ども市長部局としては精いっぱい努力していきたいと思っておりますけれども。

一方で、子供たちにどうい教育を与えていくのか。未来を与えていくのかというのが学校の現場の先生方を中心として教育委員会がその環境整備を行うという考え方は、これは全く今でも変わらずそう思っていますけれども、それらの意見を突合するということできょうの会議があるわけですけれども、きょうは事務局のほうから1つの協議事項、1つの報告事項ということで議論をなささいということでもありますので、まずその1番目の協議事項に入らせていただき、事務局からその協議事項の内容について提起をいただき、議論をしてみたいと思っております。

協議事項の1点目はといいますかその中身は、市立小中学校のICT環境の整備ということにあります。

その内容について、事務局の説明をお願いします。

教育部長

では、市立小中学校におけるICT環境整備についてのご説明をさせていただきます。

その内容でございますけれども、文部科学省が示すICT環境の整備方針の目標達成に向け、輪島市の小中学校におけるICT環境の整備を推進していくことについてのご説明となります。

まず、A3のほうの1ページをお開き願いたいと思います。

ICTを活用した教育のための環境整備についてでございます。

①の現状、予測される社会状況の変化でございますけれども、情報化社会と言われる変化の激しい社会において、激動の時代、将来の変化を予測することが困難な時代の到来が予測されています。人口減少、高齢化が進展していく一方、今後、人生100年時代または140年とか150年という学者の方もいらっしゃいますけれども、そういうことを迎えると言われております。

こうした中、予測をはるかに超えたICTの発達により、社会のグローバル化、今でもそんな状態でございますけれども、今後さらに人、物、金、文化、情報等が国境を超えて地球規模に拡大していきます。

また、ICTとは余り関係ないですけれども、入管法の改正がありまして、国は外国人の受け

入りを現在 150 万程度から 2025 年までには 200 万人を目指すということを申しております。

次に、ロボットなど A I 等の技術革新も予測を超える勢いで進展しております。自動車の児童運転や空飛ぶ自動車というものも今現実味を帯びてきております。

その結果、現在の職業の多くが消滅するおそれがありまして、アメリカでは 20 年後には 47% の仕事が自動化されるとも言われ、日本でも多くの職業が失われることが予想されます。また、2045 年、二十四、五年後には A I が人間の一部の能力を超えて人間の生活に大きな変化が起こるとも言われております。

具体的には、手順やマニュアルでできている単純作業は自動化されまして、人間の職業から離れていくなど将来の職業は劇的に変化があるということとなります。つまり、I C T を用いなければ、使うことができなければ仕事ができない、生きていけないという時代が間近に迫っているということでございます。

そのようなことを考えると、I C T による 2 番目の人材育成が必要となります。I C T の仕組みを理解し、I C T を活用しながら、I C T では不可能とされている問題解決能力に加え、情報活用能力を身につけ、激動の時代を豊に生き抜くとともに、未来を開発する多様な人材の育成が必要であります。

人工知能よりもすぐれていると言われる意味、状況を深く理解する能力を高めること、あらゆる状況、問題点を把握し、自分自身で考える力を伸ばすことが今後生きていく上で必要となります。そういうことで、問題解決能力と情報活用能力が重要となってきます。

まず、プログラミング的思考ですが、学習指導要領の改訂によりプログラミング教育が必修化されました。小学校では 32 年度から始まり、中学校では 31 年度から始まります。プログラミング的思考とは、ある目的を定め、目的の実現までの過程で生ずる問題を分解し、分解された問題の論理的解決を積み重ね、最終的にはその目的の実現につなげる考え方を言います。

要するに自分の考える、しようとする動きを行うためにどのような動きをする必要があるかを考えまして、その一つ一つの動きに応じたプログラミングをどのように組み立てたらよいか。そのプログラミングをどのように改善すればよいかと、そのような思った動きにどのように近づけるかと、そういうことを論理的に考えて解決していこうとする思考でございます。

プログラミング思考を育むことにより物事を抽象化して捉える能力、物事を分解して理解する能力、やるべきことを順序を立てて論理的に考える能力などや、判断力、表現力などが育成されます。

次に、情報活用能力でありますけれども、ある目的の実現に当たり収集した莫大な情報の中から取捨選択した情報を活用するそのような能力も生きていく上で重要になります。

今インターネットで調べればわかることでも先生に教わっているのが現状です。これからはインターネットで調べればわかることをインターネットに任せて、その情報を効率的に活用した創造的なスキルを養うことを重点に置くことが重要になってまいります。I C T 教育を通して I C T を使いこなして情報や技術を使いこなす人材を育成する必要があります。

次のページをごらんください。

それを育成する手段といたしまして、A I に置きかえることが不可能な仕事を行う人材、A I をつくること、または活用する、使いこなすことが可能な人材が今後必要となります。

児童生徒の学習環境の整備が必要となり、それにつきましては I C T 機器、I C T ネットワー

クを利用させ、児童生徒が問題解決能力、情報活用能力を身につけることが必要となります。

次の教員の授業環境、主体的、対話的で深い学びにつなげる授業環境につきましては、ICT機器を整備することによって、授業携帯その1として、写真、動画など非言語情報を活用することで児童生徒のイメージ化を促進し物事の本質を理解させる授業ができます。

授業形態その2といたしましては、インターネット上の検索を通じて教科書、文献にはない経験に基づき知恵、知識を収集させる授業ができます。

その3といたしましては、協働的に問題を解決していくための授業を行います。子供同士が教え合い、学び合い、協働的な授業を行うことによって学力テストの正答率が高いという結果もあらわれております。

次、3ページをお願いいたします。

課題に対する取り組み計画（その1）でございます。国が2018年度から2022までの5年間の期間とした第3期教育振興計画を策定いたしました。

下の表をごらんいただきたいと思います。

中ほどの教育政策の目標としまして、確かな学力の育成といたしまして、今度、測定指標をごらんいただきたいと思います。その中ほどにOECD（経済協力開発機構）のPISA（学習到達度調査）でありますけれども、そのような調査によりまして各種国際調査を通じまして世界トップレベルを維持することを国では指標として挙げております。

次に、下の欄の教育施策のICT活用のための基盤の整備の目標施策として掲げまして、右の測定指標として学習用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備とか、普通教室における無線LANの100%を整備、超高速インターネットの100%整備などを挙げているところでございます。

次のページをごらんいただきたいと思います。

右の課題に対する取り組み計画（その2）でございますけれども、学習指導要領の改訂が行われ、1として主体的・対話的深い学びを全面的に行うこと。2として、プログラミング教育を行うことがこれまでの学習指導要領と異なる特徴を有したものとして改訂が行われました。

次のページをごらんいただきたいと思います。

課題に対する取り組み計画（その3）といたしまして、輪島市教育振興基本計画もICTを通してアクティブ・ラーニングを促進する教育、教員がICTを効果的に活用できるような研修を行うことなどを挙げております。

次の6ページをお願いしたいと思います。

先ほど3ページに若干ご説明しました課題に対する取り組み計画（その1）の国のICT活用のための基盤の整備測定指標と輪島市の現状の対比したものでございます。

国は、2022年までに次のことを私どもに整備することを求めています。

まず、学習用コンピュータでございますけれども、3クラスに1クラス分程度整備することといたしまして、将来的には国では児童生徒1人1台ずつ整備することも目標としています。

輪島市の現状ですけれども、各小学校にパソコン教室1室を設置して整備いたしております。各小学校に1クラス分程度整備ということとなっておりますけれども、パソコン教室は1室でありますので、仮に完全複式の学校におきましては国の目標を達成しているところでございますけれども、6学級ある小学校にはこの国の目標としてはちょっと遠いというのが現状となっております。

ます。

次に、指導者用コンピュータですけれども、授業を担当する教室1人1台ということになっております。輪島市では、輪島市中学校ではその目標を満たしておりますけれども、輪島中学校を除く小中学校では教師の私物または校務用を代用しているというのが現状でございます。大型提示装置・実物投影機でございます。国では普通教室、特別教室100%整備ということとなっております。

輪島市では、小学校では大型モニター、電子黒板について授業ごとに教室を移動しながら利用しているということでございます。小学校では必要となる授業が重なった場合、非常に不都合が生じておりますし、またモニターは大人数の小中学校では後ろの席の子は小さくて見にくいという状態も現実的には生まれております。

中学校では、普通教室に設置型プロジェクターがございまして、移動式でございますけれども、特別教室には大型モニターや電子黒板を設置している状態でございます。

高速インターネット及び無線LAN100%整備ということで国が示しております。

輪島市では、超高速インターネットを全小中学校において100%整備というふうになっておりますけれども、これは統計上公表しておる数字でございまして、以前、どういうふうにこれはありなしをすればいいのかという県に聞いたところ、中心部である市役所の出入り、中ではない、本当の入り口が基本的には超高速インターネットが30メガということでございますので、30メガがあればそれでいいよというふうに県のほうで回答したので100%整備となっておりますけど、実質的には8メガとかそれ以下ではないかというふうに思っております。実質的にはゼロではないかなというのが現状でございます。

無線LANにつきましては、輪島中学校の普通教室のみ整備がなされております。統合型校務支援システムということでございます。国としては100%ということとなっておりますけれども、輪島市では未整備でございます。

統合型校務支援システムというのは、成績処理とか出欠整理とか、健康診断とか事務系のものを全て網羅したようなシステムでございまして、私個人的にはこれは県とか、2市2町とか、広域的に整備すればいいのではないかななんて思ったりもしています。

ICT支援4校に1人配置ということでございます。輪島市では未整備でありまして、近隣の市町でも穴水、能登町、珠洲市にはもう配置されております。他の市町の状況を調査しまして、今後、支援員の輪島市での役割を明確にしながら配置していきたいというふうには思っているところでございます。

次、上記のほか、学習ツールや予備用学習者用コンピュータ、充電保管庫、学習用サーバーなどの整備を国は求めております。輪島市では、その中で未整備なものが予備用学習用コンピュータ、充電保管庫、そして学習用サーバーなどが整備されてない現状であります。この状況でありますので、国が示す2022年までの4年間で計画的に整備していければなというふうに考えておるところでございます。

以上で、ちょっと簡単でございますけれどもご説明を終わらせていただきます。

市長

ありがとうございました。

国が掲げる目標とそれに対する輪島市の現状というところが明らかになったところであります

	<p>が、まず、このICTの環境整備ということについて、委員の皆様方はどのように捉えておられますかね。</p> <p>特に現場にごく最近までおられた立場で、小川委員さん、どうでしょうか。</p>
小川委員	<p>もうこれは整備したほうがいいのかというそういう議論ではなくて、もうこれはしていくしかないというか、しなければ将来を担う子供たちにとっては大変なハンディになるだろうと、簡単に言うとそういう。</p>
市長	<p>そういうことですね。</p> <p>古原さん、どうですか。</p>
古原委員	<p>私も早く整備して、ほかのところにおくれをとらないように。あと、先生も本当に子供に教えられるだけの十分な力を持ってしてもらえれば、子供たちも力がつくのも早いと思いますし、早くして整備できたらいいなと思っています。</p>
市長	<p>左古委員さん、どうですか。</p>
左古委員	<p>私も基本的に同じなんですけれども、子供たちはこの後社会へ出るときには絶対に離せないという必要なものですね。だからそれは学校教育の時代から触れさせるということは非常に大事だろうと思います。</p> <p>ただ、問題がこの資料にもありましたけど、輪島市、学力がいま一つ低いんですよ。だから、そういう意味で、学校の現場の先生方がこれを活用して輪島市の学力、ほかの市町に負けないようにつけていくということが一番大事なのかなと。</p> <p>子供たちはその操作に習熟する、教員はそれを使って魅力のある授業をして、そして学力が上がるように活用してもらえればというふうには思っていますけど。現実是非常に低いので何とかしてほしいというのが私らの気持ちです。</p>
市長	<p>民間のといいですか、教育現場とは全然これまで違う世界の中で仕事をして来られた石本委員さんは、どうでしょうか。</p>
石本委員	<p>自分はやっぱりこの子供たちが将来的に社会へ出て活躍するときは、市長の言われたように人材育成という感じでどんどん進んだものを取り入れていったほうがいいんじゃないかなという気がします。ただでさえ左古先生言われたように、学力が低い。社会へ出ていくときはICT使って勉強ができるようになりゃ一番理想かなと。</p> <p>何か輪島から出たときにすぐ役に立つというのが人材育成の絡みからみても、絶対必要じゃないかなという気がします。</p>
市長	<p>教育長の立場ではどうでしょう。</p>

教育長

いっぱいありますけれども。

私感じたことは、こういう今時代が変わったときにいろいろな道具を使って出てきますからね、パソコンなり、スマホなり、タブレットなりっていうことで。そういったものを活用して、今までやっている学習というか、授業といったものの生産性を上げるというか、効率を上げるところにそれを活用すべきやと。

だから、黒板に向かって授業をするということもあるけれども、もう少し子供たちが授業に溶け込みやすいものを映像とか音楽とかで興味引きつけて授業に引っ張り込むという初期導入とか、それから先生方、やっぱり授業のために前に準備される。教材研究とかいう部門についてのいろんなインターネットとか動画でそういうものについての効率化を上げる。授業では、そういうビジュアルな授業をやって、子供たちにわかりやすいというか、導入に従って授業をする。その後、授業のやった後、成果、点数を紙のペーパーで採点するのも時間かかるから、そんなふうないろんなツールを使って一緒にやればどうかと。そういうことによって授業そのものの学習の効率化を上げて、その分をもう少し違うところにやっていくほうがいいんじゃないか。そのためにこういうのも使うのは時代の流れとして当たり前で、政策をやられてその分は違うところにまた向けられるんじゃないかということで。輪島市については、問題はやっぱり高速のネットワーク、インターネットをやるかという問題がまず大事なんで、そこはセキュリティの問題があって、先生方が使うネットワークと子供さんらが使うネットワークを切り分けなきゃならない問題がまずありますから、そこをまずやって、高速なネットワーク、インターネットが各学校でできる。それを使っていくのが大事で、そこにあと、やっぱり各教室に無線LANみたいなを持って、スマホじゃなくてもできるような環境が必要かなと。

それからあと、授業に使う道具の問題としては、先生方が自分のタブレットやスマホで授業のときにそういう大型投影機に画面を映すという自体はやっぱりセキュリティ上もやはりそれもちよっと問題あるんじゃないか。ですから、それに大型の投影装置みたいな、大型提示装置、大型テレビみたいなものについても、少人数だから構いませんけど、やっぱり30人になってくると後ろのほうだとちよっと見にくいですから、やっぱりもっと大きい大型モニターみたいなのを学校に置いてそれを活用すべきやと。

それから、あとは先生方が今働き方改革の中で、先生、子供たちに向き合う時間がなかなかとれない。それは校務というか、いろんな授業以外の業務がいっぱい、調査物とか調べ物とかいっぱいあって、そういったものについてはもう少し県内同一的な校務支援システムみたいなものを導入して、それをまた効率化上げていって、それをつくって、これはシステム開発ですごくお金かかるんで、県内の教育委員会の中でも共同してそういうことを導入しようかという協議会も立ち上げたと聞いていますので、そういった中でもう少しコストのかからないようなシステムを入れて、先生方の授業以外のところのいろんな校務についての効率を図っていくことが必要かなと。そうしないと、子供たちに向き合う時間というのはこれからやっぱりコミュニケーション能力とか、説明、説得とか、そういった交渉力とかいうことが大事になってきますから、そういうところはやっぱり機械でできないところは人間同士のこういうコミュニケーション能力高めないとだめかなと思いますから、そういう意味ではそういった先生方の今の校務などについては効率化を図る。

それからあともう一つは、先生方でもICTにたけた先生とそうでない先生が多いような気が

あますね。50代を超えた先生なんかもちよっとどうかなという頑固な人もおりますから。じゃなくて、そういったことをやっぱりこういうもの必要だということを理解する上でも学校にやっぱり——学校というか国が言うとするように、輪島市も1人ぐらいICT支援員みたいな人を入れて、こうなんだよとやればなと思います。

じゃ、ICT支援員は何するのかということになりますけれども、日常的にはパソコン教室のPCの動作確認とか、教職員のこんなふうにするんだよと。それから、ソフトウェアのセットアップ、それから学校のパソコンのネットワークのトラブル復旧とか、ホームページの更新とか、授業の事前の準備の補助してあげるとか、そういったことについて少ししてあげれば、先生もICT、これやっぱり便利やなというふうにするので、そういった面については少し何か町おこし協力隊ですとか、そんな人でも雇ってICT支援員になっていただいて、各学校回って歩くという形のほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。

いっぱい言いたいことがありますけれども、総合的に輪島市のいろんなことをやる中で教育分野はこうなんだというときにはやっぱりそういうことを含めて財源についてもなかなか厳しいときはありますけれども、ふるさと納税についてもやっぱり教育のほうに少し回していただいて、新しいことに向ける部分は既存の財源じゃなくて、そういったものを充てていくような形で進めていただければなと思います。

以上、まだありますけど、この辺で。

市長

今、総論の話から一気に各論の話にがくんと入っていったんで、なかなか言えば切りがないことあることはどなたも感じられたと思いますけれども、まずICTの環境整備ということについては皆さんのご意見は必要であると、そういう方向性はそれぞれお持ちであるということはおわかりました。

ですから、それを導入するとすれば、そこに付随する、あと各論の部分が問題解決をするためにはどうするのかというところが、ここの資料の6ページにもあるような輪島市の現状と照らしながら、一つ一つチェックして解決策を狙わんといかんということなので、環境整備のための言ってみゃハードの部分というのは、これは将来の子供を育てるという意味からいけば、それは金に本来糸目をつける筋合いではないんだろうと思うんですけども。

ただ一方で、もう一つ、このICTというものにまずどっぷりつかる前に、輪島市の現状は一体どうなのかというところをICTの分野以外のところで見ると、左古委員さんの言われたように、ほかの自治体から比べると水準としてはかなり低いということだけはこれ事実だと思うんです。教育委員の先生の中に高校の立場から見て小中学校の子供たち、教育現場に期待するものは何があるだろうかというところをいろいろとお考えを聞かせていただくという意味でうちの教育委員の中には高校の校長先生をしておいでた、そういう方も、小橋先生であったり、今回は左古先生に入らせていただいているという、高校から見た小中学生に期待する学力の問題はどこにみんながその問題を共有して教育の問題に取り組むことができるのかというところを本当はICTの前につくっていかうというのが私どもの考え方、見方でした。

ですから、例えば英語力が弱いというそこがスポット、特になっておるのであれば、例えば穴水の場合はどういうやり方をしするのか。それは、ここの今、2市2町の教育現場をそれぞれ実は教員の方々というか、人事異動でどこがどういうやり方をしているのか、

成績が向上してきたのかということとは恐らく見ておいでると思うんですね。そういう問題を学校現場で皆さんがどう共有できるのか。そして、それをうちの中ではどこが欠落して、その問題を解決するためにはどういう手法をとればいいのかということもICTの環境だけじゃなくて、そこを並行してやっていくという力がないと、それが機械力だけに頼って、新しいものを導入して、そのことによって全てが解決できるという問題にはなかなかならんような気がしているんです。

ならば、TTという方法が必要ならばそれもやっぱりやって、そして教える側の指導力も高めないと、これはなかなかICTの機械の問題だけではないと思うんです。学校には図書室もあって立派な図書がいっぱいある。だから、『三国志』をわざわざ活字で読むのか、あるいはアニメで『三国志』を見て人としての生き方をその中で学ぶのかということ、これ2つ選択肢があって、どちらも間違いではない。だから、そういう生かし方とか、人の育て方みたいなものをやっぱりどこかで考えていかんといかんのかなと思うんです。

子供たちはやっぱり、いつも思っていますのは、今、「セカンドメモリアルGOGO」とい事業も始めてもう10年以上たちますけれども、この事業にしても、集まった55歳のいいおっさんたちがやっぱり昔の先生が写真を集まる間にDVDでそれを見せて懐かしがったり、先生というのは本当に子供たちにとっては生涯絶対自分を導いてくれた人やというそんな思いを強く持つておるわけやから、そういう人にまずなってもらわないといけない。

一方で、よく卒業式になったら卒業式欠席するという先生がおって、それは何でやといったら、その日出ていいたらみんなでプールへ放り込まれるから卒業式休んだという先生が昔はようおりましたけど、そういう嫌われるかもしれんけど、嫌われてもいいから教えるという先生と、そしてその先生に出会ったことによって勉強嫌いが勉強好きになって、もうどんどんどん生涯、あの先生はと思われる、そういう指導者の育て方、その子供の育て方、その中に材料としてあるは、今は図書室にある本でもあったり、それからどこか塾へ行けば塾の中でタブレット使って、もう順番に問題が出されて、それを答えを出したら、違う答えをかけばそこは修正させられる。そのことによってゲーム感覚で正答率を高めていくという、そういうやり方もあるんだろうし、いろいろこのICTはこれから使い方がいっぱいあるんで。これを総論としては導入することはこれから決められた国の22年なら22年までの間にどんなふうを整備するかということを経済委員会として計画的に組み立ててもらえれば、市長部局はそれに答えていかんといかんですけれども、並行して使う人、そして教える人は機械の操作を教えるんじゃないくて、人としての生き方であったり、学習であったりということをこの機械を通して教えいくんであって、機械の使い方を教えるなんていうのは、これは次元は別の問題である。

ですから、支援員にしたって、ただ支援員をどこから連れてきて、この人を支援員やというのか、輪島市の教育委員会全体の先生の中で特にすぐれた人をチームリーダーにして、その人の機械の使い方、指導の仕方というものをみんなが共有して、それでこんな会議みたいなことで、いや、あんたはそういうやり方やけど、こっちのやり方もあるがなんいかという、そういう議論をして支援員を育てていくというやり方もあるんじゃないか。単に地域おこし協力隊が知ってるから全てということも言えんと思うので。そういう、うちは支援員がおらんで言い切るけれども、すぐれた人は中に絶対おるはずや。その人を本当に中心にして、みんなで支援員を中につくっていく。そのことによって必然的にみんなの土壌が高まるというやり方も誰でもできるんだろうと思うんです。そこを乗り越えられんかって、どこかよそから連れてきた人を支援員にしてぽんと

<p>教育長</p>	<p>入れたって抵抗感が強くなる。</p> <p>方法論の話になりますから。やっぱりこれ、ICTを進めるについては優先順位を決めて、年度割にこういう計画性を持ってやるべきやと。それが一番大事なことですね。やっぱり計画の中としてはここにいっぱいありますから、じゃ、今何が必要かということの優先順位をきちんとして、これを何年間でこまでするといふ形のほうがいいかなと。</p> <p>それから、支援員の話、これは方法論の話なんで。やっぱり市長が言われる先生の資質の向上というのが大事なことで、これは以前から課題なんですけれども、今の現状を見ると30代か40代から50代のちょうど男性で中堅になるような年代がちょっといないんですよ。見ると、ぱりぱりとやってみんなを引きつけていって、中堅となっていくような人がちょっと足りない状況はあるわけです。年齢構成見ると。50代いっぱいいますけど、40代とかあんまりいないんですよ。そうやってくると、そういう人的問題があるんです。それから、今の教育なんかでもいろんな病気で休んでいる代替の講師とかそういったことは配置しにくいという人手不足の問題も出てる現実はあるんです。輪島中学校の病気で休んでた先生、次の人見つからなかったという話もあるんで、結構クラスも動揺したという問題もあるので、そういうことあるってなったとき、やっぱり先生のなり手が今いないということもあるし、少なくなったということもあるし、そういう現場として県全体としては七十幾つ済んだ人でも講師に無理やり頼んでやるところもあるという現状もあります。</p> <p>その中で、現にいないと。中核対象いないというところについても、これ、若い人を育てるしかないという感じしますが、そこはやっぱりそういう指導する現場でおいでてやりますけれども、そういうことでありますけれども、そこはどんなふうになっているのかという課題が残っていると思いますけど、そういう課題があります、現実には。</p> <p>ですから、先生方はやっぱりいろんないじめとか体罰とかいろいろありまして、いろんな問題出て、保護者の問題とかあって、いつもかんも学力向上せんと言われ続ける学校ありますから、そういった中では先生方かなり心の中疲弊しているような感じ受けますので、そんな先生方やっぱりやる気を持って先生はいい仕事やと、やりがいある仕事やというようなモチベーションを持てるような環境としてやらないと言われてっ放しでね。先生方も大変だと思いますので、そのところはやっぱり。</p>
<p>市長</p>	<p>だからそれは、途中で話の腰を折るようやけど、それは教育長としては第三者的にそうしてやらなだめなんないかという考え方がありなんですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>そこを私はこれからはもっと違う、これはずっと言ってきましたけれども、先生方についてはもう少しモチベーションを持てるような物の見方をしていかなんなどはずっと正月から思っていますので、そういうことは言うておきます。</p>
<p>市長</p>	<p>やっぱり県の教育長会議になったり、人事担当者会議とか、いろんなところでいろいろ必要なことは県の教育委員会にも理解してもらわんなんというのがやっぱり。どこまで市の教育委員会が責任を持つので、市の教育委員会が人選をしたものを外部からの講師としてもっと登用すると</p>

	<p>いう裁量権を与えてもらわんと。これは地方創世の世界やと思う。地域のさまざまな課題がある中で、ここはやっぱり新基準でやらんとだめやとかいうところは、それは予算が必要であってもそこへ人を充てて、基礎学力をつくるという、そこがちょっとやっぱり教科によっては下から全部積み上げると、これは一本の筋道が途中で切断されると困るという。全部道をつなぐという意味では、その教科についてはこういうやり方やとか、それからこれはそこまでしなくてもいいとか、そういうようなことを含めてやっていけば、人材はもっと多いような気がする。</p> <p>県の教育委員会の人事で教員の配置が決まっていって、不満があるんであればそこにやっぱりそのことをお願いしてこないかんと思う。それは私らの役割としてせんならんとこあれば、それは言うていただければ私らもやるし。</p> <p>それから、今そう捨てたもんじゃないというのは、生涯学習の分野でいうたら公民館の館長さんなんていうのは元教員という人は随分ふえてきました。これはやっぱり生涯学習という分野で、単にその地域におる何でもできる人じゃなくて、生涯学習も教育的視点からやっていこうとするということからいけば、現役退いた人でもすごいやっぱり頑張ること事実ですよ。</p> <p>ですから、人はおらんわけじゃないと思うんで、そこは教育長に委ねるところ。</p>
教育長	<p>先生方も再任用の方もおりますけれども、なかなかそれも単に出ている人もおるのは事実です。</p>
市長	<p>ある学校でいじめみたいな問題があつて、それが偽装やったかどうかわからんけれども、その子供一人に振り回されて、やっぱり現場におる先生も悩む、疲れる、そういう問題もあるわけやから、そういうところにどんなふうにもんが手を当てられるのかというようなこともやっぱり、ああ、自分のところでないさかいよかったと言うて逃げてもらったら困るというかね。</p> <p>総論的には、この環境整備に向かっっていけばいい。ここの現状のところはそれに合わせて対応していけばいい。その方法はいろいろあると思う。この輪島市の足らざる現状を補っていくための手法は、どうすれば解決できるかという問題はいっぱい選択肢がある。そこは全体で協議をするということやればいいと思う。時代的には、そういう時代やと思う。</p> <p>という方向で結論づけてよろしいですか。</p> <p>これは、ほかにこういうやり方があるという意見があつたら、総論的にはそうなんですけど、何か皆さんのほうで動きがあつたらいろいろご発言いただきたいなと。</p>
左古委員	<p>ちょっとICTとずれてるかもしれませんが、先ほど市長さんが高校のほうから見て小中学校にどう思うかというお話ししていただきましたけれども、高校は、私、平成十四、五年ぐらい輪島高校にいたんですけど、そのときに入学試験で受けてくる子らの学力の平均というのは、県の平均を超える子が七、八〇%。県の平均超えとったんです。まあまあの成績やったんですけど。</p> <p>二十一、二年にちょっと行ってまた戻ってきて、輪島高校で入学試験を見たときに、超えている子が20から30ぐらいまでいたという状況で、要するに七、八年の間に中学校の学力が全体的に下がってきているんだなという感じがして、何とかこれならんがかなというのは思いましたけれども、高校としては受け入れた子を何とか次のシーンまで実現のために何とかしなきゃならないということで少人数の習熟度の授業をかけたか、結局、数は少ないんだけど、希望する大</p>

	<p>学があれば何とかそこに入れてもらうという形で3年間で少しずつ伸ばせるものは伸ばしていくというやり方をしていました。</p> <p>今現状の輪島の中学校はその時期と余り変わらない状況で、具体的に数字は何%かちょっと私わからないんですけど、半分以上超えているということはないと思います。</p> <p>輪島中学校を何回か見に行くと、やっぱり授業が体をなしてないというふうな雰囲気もあると思う。</p> <p>そうするときには、とにかく授業規律できちっと怒りつけて参加させるという方法もちろんあるんですけども、怒りつけてでも参加した。参加したけれども、先生の授業はおもしろくないということになるとまた同じことになりますので、そういう意味で先生方が魅力ある授業をとにかくして、子供たちが授業に集中できる環境ができれば一番いいのかな。</p> <p>生徒指導の面でも先生方が力を合わせてやってほしいし、授業のほうでは今ICTも含めて、魅力ある授業をしていただければ少しはまた上がってくるかなというふうに思いますが。</p> <p>市長</p> <p>輪島の成人式に参加していただいて、教育委員の皆さん方、いろんなことを思われたと思うんですけど、全国ではよく成人式が大混乱をするということになる姿を見て、この子供というか、新成人を見ると3タイプ、ここはいっぱいいるんです。</p> <p>暴力はともかくとして、騒いで少し乱れさせようという二十歳は結構いる。昔はこっちの子がこっちに座ってとることにわざと電話かける。会場の中で電話のベルを鳴らしたり、大声で笑ったりする。</p> <p>これどうすりゃいいかなと思って、成人式の手法を変えようと。新成人になる人が企画立案をする。そして、実行するという方式にまずしようと。それから、新成人よりももっと幼い子供たちがすごい頑張るととる。あんたら恥ずかしくないかっていう。そんな大屋小学校の子供の郷土の芸能を一生懸命習った、その小学校の子供が頑張るととる。</p> <p>だから、二十歳は恥ずかしくない生き方をしとるかという、そこをちょっとくすぐる成人式をつくろうと思ってずっとそれやってきたんです。そうすると、騒ぎそうだけど、騒がない。逆にそれは心配なほど静かで。</p> <p>写真撮るときだけ前で並ぶのは許してあげようかなと思った。子供の気持ちをリードしていくとか、単に抑制する、上からかぶせて抑制するだけでなく、中でどうやってその子らを持ち上げつつ引っ張っていくのかという手法もやっぱりどこかに隠されておるんかなと思うんですけどね。</p>
小川委員	<p>今、ちょうど市長さん、左古先生おっしゃったんですけども、中学校、小学校のときに圧倒的にほかの市町村と自分はこれが足らんがでないかなというのは、今市長さん言うたように、子供たちが学力をどうするこうする以前に真剣に今も大事に生きようとする姿勢づくりという点で圧倒的に輪島はちょっとおくられているんだと。それはその市町村によって何でもいいんです、ツールは。</p> <p>だけど、輪島で、じゃ、輪島市の子供たちは、成績は別としても今を大事に生きようとする姿勢を何によってつくろうとしているのかという一番の根幹のところは何やと聞かれたときに、さて何んなやと。</p>

自分輪島において、そしてほかの市町村へ行った。ある学校では、ちっちゃい学校でしたけれども、高校進学って聞いたときに保護者の人は、別に行きたきゃいい。そういう集まりで進学率なんて本当にほとんど皆無に等しい。これらの関心もない。

ところが、その子らに勉強をと言うても、それはほとんど勉強には向かない。じゃ、何からするか。もうそんなことは一応当たり前やけど置いておいて、例えば地域の安全を考える。防災でもいい。そういうところで、子供たちがどんどん社会へ出ていって、そして勉強とは違う。全く利害関係のない中で社会から認められるような姿の中で自然と、じゃ今自分らのできることは何やと。ほんなら、部活やってみるとか、勉強するとか、そっちへ姿勢が向かっていったときに、先生方も、あれ、いつの間にかちゃんとみんな聞いとるやないか。どうしたらこんなんになって。別に聞けや、聞けや。きちっと授業というのはこうするもんやとか、そんなこと言うるとんじゃなくて、いつの間にか気がついたら子供たちがもうそうせざるを得んというか。そういうような何か輪島市としてみんなが今輪島においてこうやって輪島のいいものを享受できる、未来永劫享受していくためにどう自分らは生きていけば、この輪島を未来永劫続けていけるかというような、何かもっとそういうところも根幹を問うていくというか。

その結果として学力はどうであるか。これ技術は当然、学校の先生方は授業改善とか、そんなものはもう当たり前、それを殊さら言う言わんじゃなくて、それはしていかがるを得ない。その上に、じゃ、その勉強していくものを外へ出ていく、輪島から外へ出ていかん子、ほんなら勉強せんでいいが。そうじゃないやろうと。

そしたら、輪島のみんなはここ何すると。一つには、この町を守るために何が要るんやとか、今、輪島の町はどうなっておるんやということを見させるような、単なる数学や英語だけじゃなくて、そういう方向性というのが実は小学校ではちょっと見えておるんです。でも、一つの学校全体としてそこへ向かう、1年次、2年次、3年次、そういったことのエネルギーがどうも足りないんでないか。

もう一つは、そういうことを支援していこうというような、あるいは思い切ってそれにトライするような学校の気風を応援するんやと、そういうところがちょっと何か足らんのではないかなと。

せっかくと言ったらおかしいですけど、能登半島地震で防災ありましたよね。じゃ、防災のときに輪島は全国に先駆けて防災の先生を呼んで、そして中学生全部集めて講演も聞いて、そこまです。

ある町へ行ったら、防災訓練を各小中学校を単位にやるんですですけども、その小中学校へ集まるか集まらんかはその小中学校の教員なり生徒が企画すると。行政が企画するのはもちろん防災訓練でやるんですけども、そうすると市内の小中学校は自分で判断せないかん。

ある先生は、そんなことやとられるかと。こんなものは行政の仕事やと。そこがもう根本的に違います。

だから、自分たちの地域の中で学校が1つあって、学校が地域に何を貢献できるんやという視点から、子供たちもその地域を見たりして、そして自分たちのできることは何なんやと。それを探していくような、ですから答えはないんですよ。

例えば三井地区でやるのと、こっちの例えば西保などでやるのと全く違うけれども、防災という視点だけで捉えれば一つですけども、それぞれに判断していく、そういうことを校長以下職

	<p>員に対してそれを一緒にやっていく。それは当然、地域も見ないかん。そういったようなもっと地域全体の中で自分たちがどう生かされていくかというところの何かそれによって真剣に生きようとする姿勢ができてくることで子供たちがちょっと頑張らんかいやというふうにしてつながっていくような、そういう流れというのを何か輪島でできんかなと。</p> <p>それが市長さん言うように、もっとそういうものを先に大事になってくるような、その中で今ICTやいろんなものは、それがなかったら、というかそれがあれば非常に便利。</p> <p>というのは、道路の事情一つ見れば、今は例えば国道 249 がどんな状態かというのがとれるわけですね。そういうことでこれはもう必要やと。タブレットやらスマホ、学校では今もう持っているなど。高校でもね。どっちかといや、そうや。反対やろうと。スマホを使ってもう授業せんかいやというような視点で整備していく一環としてこのICTは絶対不可欠です。</p>
市 長	<p>私は何もきのうも教育委員会の皆さんに言うのとれんけど、東京行って電車に乗っても、本読んどる人はもう車両に一人かそんなもんで、あとはみんなスマホ持ってにやにや笑うて、ゲームしとるがから、それからスマホで本読んどるがから、とにかく誰も口をきかない。コミュニケーションのない社会に今なつとるんで。</p> <p>そういう社会の中で、一方では、家庭ではスマホを制限したり、ゲームを制限したりいろいろやっておることと、今これは国が一気に方向転換して、これをどーんとやろうという社会に今なりつつあるんで、それはそれで受け入れていけばいいと思うんです。だけど、学校で荒れるがなら、一番荒れる原因の子供を生徒会長にするとか、もっといろんな戦略を考えりや、世の中変わってくると思う。</p> <p>というわけで、わかったようなわからんような形ですみません。この協議事項を終わらせていただいて、次、報告事項へ移りたいと思います。</p> <p>報告事項については、小学校の適正規模・適正配置、こういったことについて。</p> <p>当面、3月末で南志見小学校が廃校という状況になります。子供の教育環境をきっちりとしていくためには、一つは、建前だけで語れない問題もありますので、その建前論と、それから現実論のはざまをどう教育委員会としてこれから進めていくのかというところがその取り組みの報告ということで、事務局のほうから説明を聞いていきたいと思います。</p>
教育部長	<p>お願いいたします。</p> <p>それでは、報告事項の資料をごらんください。</p> <p>輪島市小学校の適正規模及び適正配置についてということで報告いたします。</p> <p>再編につきましては、輪島市立小学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針に基づく教育懇話会への開催を通じて児童の保護者、地域住民とともに本市における小学校のあり方を検討していくということです。</p> <p>これにつきましては、資料のB4のものをごらんください。その1枚目です。</p> <p>平成29年の4月1日から平成33年の3月31日までに、先ほども出ましたが、輪島市の教育振興基本計画の終期までということで、以上、そこに書かれているものが出ております。</p> <p>建前と言えばあれなんですけれども、この期間中は統廃合は行わない。ただし、以下の取り組みを行う中で保護者、地域との合意がなされれば統合を進めることということで、1つ目につき</p>

ましては教育環境の整備の一環として複数校による交流学习の拡充。2、1の取り組みによる自主的な教育機会均等の検証について。そして、先ほど報告にもありましたが、2の検証を行いながら、児童の教育環境には具体的な影響について問題意識の共有化を図るために説明会、教育懇話会を行っていくことが考えられておりますので、それに基づいて取り組みが行われてきました。

戻りまして、A4のもの2枚の1ページ目をごらんください。

これに基づいて取り組まれたことはここに書かれております。

平成29年度におきましては交流学习や合同学習が実施されております。小規模校同士であったり、その中に河井小学校が入ったりしながら交流学习や合同学習の実施が行われております。

また、先ほどもお話ししましたが、いろいろ課題が出てくる中で教育懇話会の開催を平成29年度は各学校で行いました。ただ、南志見小学校だけは大雪になりまして開催できませんでした。

続きまして、30年度の先ほどの方針に基づいて取り組むんですけれども、交流学习、交流合同学習の実施ということで、ことしは河井小学校も入っていませんが、鶴巣、河原田、三井小学校で2回、南志見と町野が特に多くて、今回は5回実施されております。

教育懇話会ですけれども、先ほど南志見小学校が教育懇話会できませんでしたということで今年度当初、早い段階、6月において、ほかの学校は今2月、1月から2月にかけて行われておるんですけれども、南志見小学校につきましては、昨年できなかったということで6月に開催しました。そこにおきまして、少し課題としまして、例えば河井小学校へ行ってもいいのかとか、小さい学校がいいと言われたのに統合していくのかとか、地域のつながりが心配だというご意見が出ましたので、少し統合について何か案を出してこれの方向性を示してほしいということでお話がありました。

2ページ目をごらんください。

それを受けまして、8月31日にそれらに方向性等少し示しましたところ、具体的にそれが今ここに書かれているとおり、向こうの学校行ったらどうなるのか、児童クラブどうなるのか、保育所の保護者も一緒に話をすればどうかとか、いうことが出ました。やはり不安のほうも出ましたね。また、それについての回答ということで9月25日に回答の会議を開催しました。

その中でほかの学校についての統合の話も出たり、予定はあるのかということや、実際高校になったときにどんなふうに指示していただけるのかとか、どんな不安があるのかという話が出ました。

10月23日におきまして、閉校の案が同意されたということになります。

3ページ目をごらんください。

保護者の方の一応合意形成がなされたけれども、地域についても少しということで11月7日に、地域団体の長ということで南志見小学校の現状と閉校の案を説明したところ、やはり地域の活力が失われるという意見がありましたが、その後、その方々に対して個別で電話で説明した結果、おおむねしょうがないということで理解を得られたということになりました。

12月5日ですけれども、そこにおいてスクールバスの運行等の説明をきちっと行いました。

その他ですけれども、同じ規模で少し大き目な鶴巣小学校につきましては12月3日に開催されて、少し就学校の変更があると。本来、鶴巣に来なきゃならない子供が河井へ行っていると。それによって学校はちっちゃくなっていて閉校に向かうのはどうかというようなご意見がありまして、そのときにこの後、鶴巣小学校は統廃合を考えているのかということも意見に出ました。

	<p>門前西小学校につきましては、意見としましては中学、今後も少子化のことがありまして、門前中へ行くときにソフトボールしかないんだけど、何とかできないのか。自分の子供は個人競技をしたいんだがないので、その辺についてもどんな手順があるのか。廃止をするんならどんな手順があるのか等の意見が出されました。</p> <p>12月6日、河井小学校です。先ほども少し話が出ましたが、小学校の学力は実際、今年度は県平均でしたが、県平均の上なんだけれども、中学校、特に輪島中学校についてはどうなのかというご質問がありましたし、輪島市のほうで自己肯定感を育てるにはどんなふうに家で育てたらいのかということも出ましたので、委員会のほうの考えを少し保護者の方に説明をしました。</p> <p>この上記以外の学校では今後やっていく予定です。きょうも午後から大屋小学校となっております。</p> <p>以上のように、各地域の問題や保護者、地域の方のご心配等に対して回答したり、委員会の考え方を説明しているのが教育懇話会となっております。その中で、ここには書かれていますが三井小学校につきましても先日ありましたが、今の規模に不安を抱えておるといってお話も少し出ましたので、やはりそういうところで今後この懇話会を続けていって、保護者の方の意見、地域の方の意見を聞いていくのが大事かなということで、先ほどの検討していくということを報告させていただきます。</p> <p>以上です。</p>
市 長	<p>現状について説明がありました。中でも南志見小学校の閉校に至るまでは教育委員会としても大変な苦労があったことだと思いますけれども、それぞれ地域の人たちもいろいろ思いはあれども、子供たちの将来ということで最終的には結論を見出すことにつながったというふうに思っています</p> <p>決してほかの学校についても今後不安がないわけではありませんけれども、ただ、これまで小学校については、原則、統合廃止はないというところからスタートしているところでもありますけれども、そうはいっても、現実というところを変化に的確に対応して子供のためという会議にしていってというところで、南志見の小学校廃校については12月の議会でそれは皆さんが議決もいたしましたので、その方向性はそれで受け入れられるということなんです、今後の問題も含めて、引き続いてこのA3の資料ほうの説明はありますか。</p>
学校教育課長	<p>A3の1ページ目ですけれども、済いません、説明が少し足りませんでしたが、今、課題に対する今後の取り組みということで、29年度から行っているものがそこに書かれております。</p> <p>基本方針の説明なんですけれども、事業面においては学び合い、切磋琢磨ができないということが課題でありますし、学校生活面においても子供たちの友人関係、交遊関係が固定される等や、刺激がないので社会性を育む機会が少なくなっていく。友達がふえないので集団生活ができない。また、これも教育懇談会の中で少し出てきたものもあつたんですけれども、運動会など学校行事や音楽活動等の集団教育の活動に限界が生じる。保護者や地域の助けも少しずつなくなってきた、学校だけではという話も少し出ておりました。</p> <p>学校運営につきましては、教員数が少ないということでバランスのとれた配置が行いにくいということで、やはり少し小さい学校でもこのことにおいて課題が出てきております。教頭配置も</p>

なくなるような姿もあります。

これらの対応策は、今までも行っているんですけども、先ほども説明しましたが、交流学习や合同授業を行ったり、機会均等の検証ということで、これからまたアンケート等をしっかりとって、アンケートや学力についての相関性も検証していきたいと思っております。

説明会につきましては、先ほどの教育懇話会となっております。

統合の条件ですけれども、これも保護者と地域の合意が形成されたということで南志見小学校を行ったと思います。

次のものをごらんください。

児童数、生徒の推移ということで、2018年の5月1日ということで、南志見小学校が書かれた形になっておりますが、先ほど少し出しましたが、例えば鶴巣小学校をごらんいただきますと、2019年の新生児が8人、2020年も8人、2021年も9名ということになって、30を超えた子供たちが就学することになっておるんですけど、実際はこれは河井小学校へ行きまして、希望が少なくなつて30人を大きく割っていくような形が予想されます。

河原田小学校につきましても、ここに書かれているんですけども、新生児は2桁と書かれているところもありますが、これも河井小学校に流れていきまして、複式の学級というか、になってきます。1年生も複式が考えられるようになります。

三井小学校におきましては平成20年度が19ということで、補足しますと20名だと教頭がつかず。19名になりますと教頭が欠けていくことになりまして教員数が減っていくということで。ただ、20年度は19なんですけれども、県のほうでは経過措置ということで1年だけ19でもつく。ただ、21年はこの数だと取れるということになって、少し学校もつらい状況になるかなというふうに考えております。

一番下ですけれども、東陽中につきましては子供たちはどんどん減っていきまして、2020年度には22人ということになっています。やはり少子化で、上のほうには子供の出生数がありますが、120前後、どんどん減っておる形になっています。

2ページ目も同じものになります

河井小学校のみが子供たちの減りが少ないということで、鳳至小学校もどんどん減りまして170という1クラスごとに最終的にはなっています。

説明補足は以上です。申しわけありません。

市長

ありがとうございました。

これも協議事項ではない報告事項ということですが、あくまでもこれまでの考え方を踏襲していかなんかと思っておりますので、原則、小学校については廃止、統合というのは極力避けたいというのを前面に打ち出すんだろうなと思っておりますが、一方で現実論を見たときに、地域の人たちが子供のために何とか今後も、あるいは教育委員会として考えてほしいというような、そこで意見が地区での懇話会の中で意見の一致が見られれば、そこはそういう選択肢をしていくというその方向性への一つの資料として子供たちの推移も提示されたところですが、お話の中にありましたように、学校の通学区域というのが教育委員会の委員の皆様方が集まって教育委員会としての方針を決定する。決定するというその通学区域というのはもう一つの考え方は示されておりつつ、鶴巣小学校や河原田小学校の子供たちは、そうはいつでも河井小学校がい

教育長

ずれもそんなに遠い、昔のように歩いていくわけでもなく、親が送っていくというケースも含めて、そちらのほうを選択するという自由度を認めたことからそれはいたし方ないということになるんですか。

それは国のほうで平成9年度から通学区域の弾力的運用という通達が出ていて、そういったのでいじめとか身体的理由、そういった理由のほかにも個別によって教育委員会が認める適切な通学区域の変更があれば認めてやりなさいよというふうに通学区域の弾力化についての通達が出ています。

ですから、したがって例えばさきにあったとおり、中学校でやりたい部活がないと、そういったことでも通学区域を別な中学にするということはほかの教育委員会で認めている例はあります。輪島市はそれ書いてないですけども、親の監護ということだけですけども。そういったことを認めているということで、国のほうもそういった通学区域の弾力的運用についてはいろんな子供さんの就学の場合の会議においてでもきちんと説明しようと、しなさいというようになっています。

したがって、どうしても子供さんを共働きで、帰宅しても誰もおらんから祖父母のところに学校終わって行ってもらうので、そこへ迎えに行くからこの学校は行けないねという議案がかなりあります。ほとんどそうです。

そういったことがあるので、保護者がやっぱり一時的にどうするのかということが一番あるので、現状、鶴巢小も、ことし、2018年、13人通学区域でおったんですけど、来たの3人だけやということを懇談会で説明しました。ここに8人とありますけれども、8人にならないわけですね。

河原田小学校についても、11人と書いてありますけど、そのうち7人は河井小学校へ行きます。ということは4人だと。この数字については、こういう書き方するといつも毎年数字がこうなるんだよと言うけれども、やっている実態と合っていないという。18年度まで合うとるけれども、19年は全部通学区域の中にある通学の変更ということを織り込んでないデータだということについてはありますね。そこで、これをもって何人かだと複式学級になるねって、そういうことを私も区長の立場で聞きました。ですから、データのところがとり方が少し現実と合っていないような気がしております。

したがって、東陽中学校も極端に半減しますね。これも例えば南志見を閉校したときに、南志見から行く子供はこうなるのではないかという議論も出るかもしれませんが、これを見ていただくと南志見から東陽へ行く子供は2021年度はゼロですね。翌年、22年度はあるんですけども1人ですね。ということを考えてみると、南志見小学校が閉校になるということについての適正規模ということから判定しても、これはとてもどうこうするようなデータではないというように思っていますので、これも今回、土曜日、東陽中学校の懇話会のときにも33年の3月まで統合せんということは何でやということが聞かれるという話も聞きましたけれども、それについては今の問題についてはきちんと説明する必要があるところありますけれども、東陽へ行かないとすると、問題は統合しても適正規模にならんと。なるときには全部1つにせなだめやというところが抜けている。輪島市全体として1つの学校が適正かもしれませんけれども、地域を分けたときにどうやったら適正規模にならない。その中でどんな教育を子供さんにするかということとはやっぱり考えなきゃいけないと思いますけどもね。極端な話。適正規模なんてないんですよ。

<p>市長</p>	<p>1つにするしか。</p> <p>でも、地域の実情を考えたときに、そうじゃないでしょうと。地域内に学校は必要だという意見はそうだと思いますので、そういった中でどんなふうなことを学習環境を保障してある。憲法で見ている教育環境の場を教育委員会は真剣に考えて、教育を受けれるという権利をやっぱり保障してあげるときにはどうあるのかということを実際に考えるべきだと思います。</p> <p>なかなか難しい問題で、門前みたいに中学校を1校に絞り、小学校を東と西に2校に絞ったと。輪島の場合はまだそれぞれの地区に南志見小学校が特に大きな課題になったけど、だけど、今この南志見小学校を閉校して、その地区の子供たちが行く学校は自由に選択していいということになって、仮に東陽中学校へ行かないとなると、今度は次、河井小学校へ来た子供たちが中学校へ上がる時も中学校だけ東陽ということはある得ないことになってくる。その下の子供も兄ちゃんが輪島中学校へ行ったのなら自分もその準備のために河井小学校へ入って輪島中学校へ行くその準備をするということになれば、これはもう東陽中学校の将来の数の問題というのは、ここで自由にしたら、それはもうもとに戻らない。必ずこれは門前中学校は今の東小、西小があるからそこはずっと存続してやっていけるけれども、もう一つの東陽中学校という存在は確実に危ぶまれる。</p> <p>そうすると、将来、2中学校にしても、これも木造の建物だけ残して、今子供たちは輪島中学校に統合されてしまっているから、オール輪島で門前と輪島中学校しか残らないということです。それはもう覚悟していかなければならない。</p> <p>私、教育委員会にいたときの学校の数は小中で33校あった。33もあつたとき大変でした。どれだけこれを食いとめようとして何をやったってそれはもう難しいことです。</p> <p>そういう現状認識でこの報告事項は終わる以外にないと思われそうですけど、どうですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>子供には課題解決って学校の先生は教えているじゃないですか。大人がそれ課題解決できんかったら一体何のことだと思いますけどね。子供はちゃんと課題解決能力を高めるというふうに書いてあるじゃないですか。大人はやっぱりきちんと課題解決をしていくべきです。それは何もしないことじゃなくて、やっぱり何かビジョンを示すことだと思う。きちんとビジョンを示してこうと。何もやらんのが一番悪いと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、本日はありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>これをもちまして、平成30年度輪島市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。</p>